

インフレ下の景気減速懸念が株価の重しに

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 世界景気の減速基調が一段と鮮明化

7月11日にOECD（経済協力開発機構）が発表した6月の景気先行指数（全体）は99.5と前月から一段と低下しました（右上図）。米国や中国の同景気先行指数も同様の動きとなっており、世界経済はインフレ環境下で景気が減速するという極めて厳しい状況に直面しているといえます。

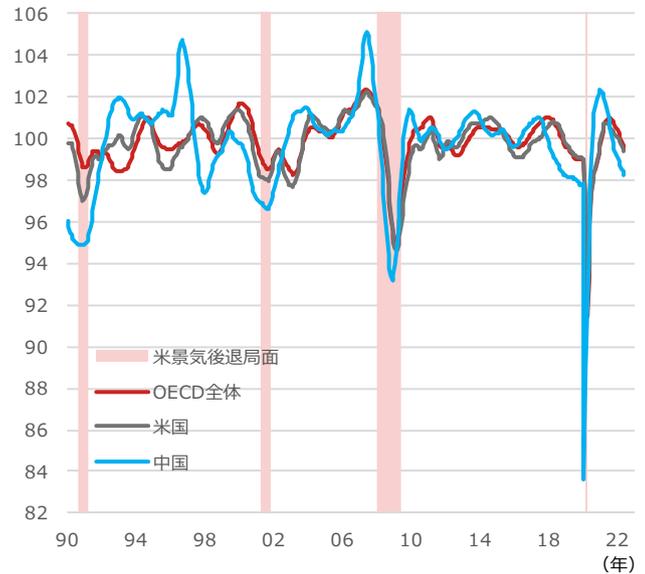
足元では米国などの主要国でインフレ抑制に向けて利上げを加速するなど金融引き締め姿勢を強化しており、こうした動きが景気後退につながる懸念が投資家の間で強まっているとみられます。また、中国ではコロナの感染再拡大で行動制限強化などの措置が再び採られることへの警戒も強く、世界経済は予断を許さない状況にあるといえます。

ポイント② 世界景気と株価は連動する傾向

世界景気と世界の株価は概ね連動する傾向があります（右下図）。2010年以降で唯一例外だったのが2019年です。2019年初めにFRB（米連邦準備制度理事会）が前年まで行っていた利上げを停止し、その後、利下げに転じたこともあり、景気減速下の株高となったことは記憶に新しいです。

ただ、今回は世界的なインフレとそれに伴う中央銀行による金融引き締めへの懸念が強まっている状況であり、2019年のように景気に配慮して利上げを停止できないことが、市場の不安を高めています。もっとも、ここに来て、過度な金融引き締めによる世界景気後退懸念で商品価格が急落するなど、インフレ懸念が後退する兆しも出始めてきました。当面はインフレ動向をにらみながら、世界の中央銀行の金融引き締め姿勢がいつ転換点を迎えるかを探る動きとなりそうです。

OECD景気先行指数



期間：1990年1月～2022年6月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

OECD景気先行指数と世界株



期間：（OECD景気先行指数）2010年1月～2022年6月、月次
（世界株）2010年1月末～2022年7月11日、月次
・世界株はMSCI All Country World Index、米ドルベース
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。